

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月10日(木)

会場:君田生涯学習センター

参加者数:50人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>・第27期の君田トエンティワン株主総会が6月17日に開かれ、累積赤字があるが、社員一丸で頑張るとのことだった。それから2か月足らずで、なぜこのようになるのか。しかも、新聞報道が先に出た。開館当初は、年間約20万人の利用があったが、今は8万から9万人の利用に落ちている。市や君田トエンティワンの頑張りが足らなかったのではないかと訪れた際に、町民の姿が見えない。君田自治区連合会として、社長あてに提案書を提出したが聞いてもらえなかった。住民、市の大事な宝である。施設がなくなると、君田地区のにぎわいがなくなる。市の助けや頑張りをサポートしてほしい。</p> <p>・君田にとっては、森の泉がなくなることは、灯が消えたようになってしまう。来訪者は、以前は年間約20万人であり、ワイナリーに続く観光施設。君田地区への波及効果もあった。令和2年度の売上高は1億7千万円ぐらいあった。以前の売上高は、約4億。昨年度の売上高は2億3,900万円であった。株主総会があり、宝であり、頑張ってくれと言う声もあった。期待をしていた。累積赤字の拡大や固定費の支払いに支障があるということで、一か月で見解を変えている。地域ではびっくりしている。あらゆる活動の元気がなくなる。通常の企業であれば、赤字で借金が重なり、早く店を閉じることはいいことであるが、森の泉は三セクである。企業と住民と行政と一緒にやってきたものである。町民の協力は足りないかもしれないが、君田の核となる観光交流施設である。行政の支援をお願いしたい。</p>	<p>君田温泉は、平成9年の開業以来、君田町に無くてはならない施設として、多くの皆さんに愛されてきた。私もファンの一人として、子どもと一緒に憩いの場として利用してきた。しかし、残念ながら経営不振ということで先般の取締役会で株主総会への解散案の提出を決定された。皆さんに誤解をしてほしくないのは、君田トエンティワンの解散と君田温泉施設の存続は別であり、仮に株主総会で解散が決議されても君田温泉が無くなることはない。君田の宝であり、三次の宝であることに変わらない。引き続き、多くの皆さんに愛される施設となるように努力していきたいと思っている。第3セクターという、普通の民間企業とは異なった形態であるが、市として君田トエンティワンに対して、中小企業診断士等による経営分析や経営診断、平成29年度には、個別外部監査を実施してきた。結果的に、経営再建に至らなかったことは非常に残念なことである。今後については、株主の皆さんの判断に委ねられるが、三次の資源として、君田温泉を良い方向に導けるように、精一杯努力していく。</p>	
<p>市が、君田の拠点として君田温泉を応援されていた。4~5年前から経営不振であり、昨年の議会報告でもグループ討論をした。意見は聞かれたが、会社の運営にどのように反映されたかわからないままに、今回の臨時株主総会ということである。経営形態が変われば、市の支援は無くなるのではないかと。8月19日の臨時株主総会での解散決議はやめてもらいたい。プロの視点で存続ができるか分析して対応すべきである。地域の意見をもっと聞いて存続できるように努力してもらいたい。</p>	<p>会社の話と三次市の関わりの2つは分けて考えないといけない。市が、経営を持続するための資金を援助することはできないというのは、旧君田村時代から同様である。どのような支援ができるかということで、会社と話をしながら経営を変えていこうとしてきたが、なかなか改善できなかった。3億5千万円程度の売り上げがある時から、6期連続で赤字が生じている。そこにコロナ禍という厳しい状況がきて、会社として非常に運営が厳しくなり、支払ができるかできないかという状況に陥った。そうした中で、何ができるか考えた時に、市が、一般財源を使って経営を持続するための資金を援助できないということを前提とすると、合併時に3億円程度の基金を引き継いでおり、それを活用して露天風呂や部屋の改修などをしてきた。残りが、1億5千万円程度であり、それを使えば、一定程度は経営できるかもしれないが、年間の赤字が4千万円であるため継続は困難ではないかと考えている。君田温泉の泉質は評判が非常に良く顧客もたくさんおられるので、休止になった場合でも、早期の再開を一生懸命やっていきたい。再開に向けた努力は報われると思っているので、ご理解いただきたい。</p>	
<p>臨時株主総会の案内で初めて知ってびっくりした。君田村時代の建設の発端はふるさと創生事業によるものであり、途中で資金が不足するという事で住民に出資を募られた。コロナ禍前から赤字があるのに、急に解散というのはどうなのか。株主ではない一般住民が知ったのは今日の新聞報道である。君田の人の話を聞く場を早く設けてほしかった。営業が休止したら、いつ再開になるかわからない。次がどうなるか、決まるまで営業を続けてほしい。その後に引き継ぐようにして、続けながら考えてもらいたい。</p>	<p>これまでの株主総会に出席されていなかった方は驚かれたかもしれないが、解散の議案提出は会社が決めたものである。これまでも、厳しい状況にあることは、毎年、新聞で報道されており、株主等関係者は、会社に確認してもらうべきであったと思う。市では、コロナ関係でも、経済対策として、1,800万円余り支援するなどいろいろな支援をしているが、赤字を少し減らす程度の効果しかなかった。十分でなかったと言われればそうかもしれないが、一生懸命取り組んできたことと認識している。</p>	

令和5年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月10日(木)

会場:君田生涯学習センター

参加者数:50人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>君田エンティワンは、市が主体となって設立されたもので、市が募集して第3セクターとしてやってきた。市が筆頭株主であり、住民に説明する責任があるのではないかと。住民を無視して、つぶすということになる。市が増資して対応すべきではないか。市の責任が無いというのはおかしい。</p>	<p>筆頭株主は、三次市であるが、経営責任は、会社にある。温泉を無くすつもりはなく、大事にしているという市の考えは一切変わらないので、温泉の灯を消そうということでないことを理解してもらいたい。</p>	
<p>庄原市のかんぼの宿が閉館し、その後再開するまでの間、行政が経営に携わっていたのではないかと。君田温泉が閉館となった場合、再開する際に市が経営に携わる考えはあるのか。また、再開するまで機器のメンテナンスはどこがされるのか。風呂は、メンテナンスをしなければ、使えなくなる。</p>	<p>株主総会で解散が決定した場合であるが、指定管理を受けている施設は、会社から市に返すことになるので、その日から市が施設を管理する。しかしながら、温泉管理についてはノウハウを持っていないため、温泉については開けることができないと思っている。はらみちを美術館、折り紙博物館、おはよう市、21番館などは管理していく。温泉については、メンテナンスをし、配管等のつまりが起きないようにしたいと思っている。その間に、修繕工事をして、次につなげていくという考えである。</p>	
<p>君田温泉が大好きであり、とても残念な気持ちである。君田温泉、はらみちを美術館は市外にもファンが多い。温泉は、1度閉じると復活させることは難しい。近隣の市の施設も閉館したままである。次の方針が決まるまでは今のまま頑張ってもらいたい。他県のようにクラウドファンディングなどの寄附を募り、君田温泉を守ろうということで、皆さんで活動していければと思う。</p>	<p>ファンが多いことは認識しているが、会社の判断として資金がギリギリとなっていると聞いている。そのため、一旦は閉めるという方針になっている。泉質が良くファンが多いということで、市が責任をもって再開に向けて努力をしていくので、ご理解いただきたい。</p>	
<p>取締役を務めているが、総会や取締役会の限られた人数で行く末を決めることはいけないと、これまでも言ってきた。君田エンティワンが無くなれば、今とは違う形態になることを心配している。お客さんと住民とがコミュニケーションをとれる施設がなくなる気がする。これまでのような関係は築けなくなってしまう。それでよいのか。これまでと同様に続けられるように支援してもらいたい。安芸高田市は、神楽門前湯治村に対して、数千万円のお金の支援をしている。三次市も同じような支援をすべきではないか。</p>	<p>・取締役の一人であり、責任転嫁をするような発言は控えていただきたい。ここは株主総会でも取締役会でもないもので、別の機会ですっきり議論するようお願いする。 ・安芸高田市では、4千万円程度を指定管理料として支出しているが、収益的施設に対しては一切指定管理料を払っておらず、神楽関係など非収益的な部分に支出しているとのことであり、本市と同様である。本市においても、はらみちを美術館に対しては指定管理料を支出している。安芸高田市の金額が大きいのは、工事が必要となった場合は、相当分について市から運営会社に支出され、運営会社が工事を実施しているためである。本市では、工事を市が行っている。布野の道の駅、広島三次ワイナリーに対しても同様に、収益事業に対する指定管理料の支出は無い。</p>	